
独りぼっちの交差点

アオキチヒロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

独りぼっちの交差点

【Nコード】

N8316A

【作者名】

アオキチヒロ

【あらすじ】

夜のコンビニ帰り、あたしは中学を卒業した先輩に会った。二人で歩く夜の道、いろんな話に花が咲く。気に食わない後輩の話や、ケータイの話。それから……交差点に出るといふ、幽霊の話。

……あれ、もしかして真南先輩？

うわー、お久しぶりです先輩。髪、随分伸びましたねー！ しかもメイクしてる！ 全然分かりませんでしたよ、真南先輩だなんて。こんな時間にどうしたんですか？

ああ、アタシはコンビ二に……ほら、今週のジャンプは土曜日発売だったじゃないすか。それ、忘れてたんで、慌てて買いに来たんですよ。

…馬鹿みたい？ あ、そんなことないですよ！ だってワンピースの続きが気になるじゃないですかー！ どうせガキですよ、ガキ。え？ あー、はい。だから中学のジャージなんです。ちょ、笑わないでくださいよー！

それより先輩、高校生活はどうですか？ っていうか、どこ高でしただけ、その制服。

ああ、N高に行っただんですか。そういやそんなこと言ってましたねー！

いいなあ、N高のブレザー。アタシもこんなブレザーが着たいですよ。あんな古くさいセーラー、もう飽きましたよー！

あの高校って、このチェックのスカートと、それにお揃いのリボンも可愛いんですね。初めて見たかも、N高のブレザー。案外、チェック柄が目立たないんですね。端から見ると、スカート布の地色の方が目立ちますもん。

そういえば、知ってます？ 先輩。

あの高校、元は防空壕だったのを埋めて、今の建物を建てたそうなんですよ。その所為か、夜中になると、戦火でに追われて死んでいった子供達の呻き声が、廊下に響きわた……ちよつと、なんで笑ってるんですか、先輩。

え、建ててから13年しか経ってない？ うわ、そうなんだ。新築だったんだ、あの高校。くそー、先輩を怖がらそうと思ったのに！でも本当に羨ましいなあ、ブレザー！。

アタシも先輩と同じ所受けようかな……そう、そうなんですよ。今年が受験生なんです。もう毎日毎日、部活と塾の往復で夏休みどころじゃありませんよ！。

そういえば先輩、今も吹奏楽に入ってるんですか？ え？ 吹奏楽部が無い？

あー、そうなんすか。残念ですねー……先輩、フルートすごく上手だったのに。じゃあ、今は何部に入ってるんですか？

……えー！？ バスケ部！？ 文化系からよく体育会系に移れましたねー…尊敬しますよ。

あたしは相変わらず下手くそなままですよ。そうだ、今年の夏のコンクール曲知ってます？ すっごい難しいんですよ！ しかもフルートの出番、かなり多いし。緊張ですか？ するに決まってるじゃないすか！。

だって今年で最後なんですよ？ 留戸中吹奏楽部でコンクールに出られるのって。留戸中学校で、フルートを吹けるのって。

あー…そうですねー。引退はやっぱり寂しいですね。先輩もこんな気持ちでした？

勉強ばつかでそれどころじゃなかった？ あはは、先輩らしいや。

あ、そうそう。今年の1年生ね、すごく生意気なんですよ。ちょっと見に来てくれませんか？

敬語使わないわ、メイクしてくるわで、ホント生意気なんですよ。アタシ達も生意気だった？ うっそ、まじですか？ あちゃー！

あれ？ そっぴい先輩、ケータイ変えました？

ちよつと見せてくださいよー。やっぱり！ テレビ付きだー！

ケータイと言・え・ば。知ってますか？ 先輩。

何を、ってアレですよ、アレ。いま中高生の間で流行ってる呪いのチェーンメール。

知らないんですか？

なんでも、そのチェーンメールは送られてきた10人目が必ず死ぬという噂なんですよ。

私も送られてきたことがあるんですけどね。ちよつと待ってくださいよー、ケータイケータイっ…

これこれ。こんなメールなんです。

『これは10人目が死んでしまう、呪いのチェーンメールです。アナタは3人目です。』

このメールを、クラスメイトに送って下さい。止めてはいけません。止めると、その時点でアナタが死にます。

送るときには、上の人数を1人目なら2人目に、8人目なら9人目という風に増やしてから送って下さい。

これを忘れてもアナタは死にます。

このメールは、地獄から送っています。止めればすぐに分かります。必ず送って下さい。』

ねー、怖くないですか？ でもまあ、10人目がたまたま友達だったんですけど、その子死ななかつたんで、ただのタチの悪いチェーンメールだったんですけど。

これって、確実に人間関係悪くなりますよね。だって9人目の人は、自分が死にたくないから10人目に送るでしょ？ 友達も送つてきた子と喧嘩しましたし。

先輩もこんなメールに騙されちゃ駄目ですよ！

あ、もうこんな所まで来ましたねー。先輩、家はどこですか？

私はこの交差点を渡って右です。ああ、先輩は左ですか。じゃあもうそろそろお別れですね。

じゃあ最後に一つ。

なんでもね、ここの交差点って、出るらしいんですよ。

あー！ 疑ってるでしょ、先輩。本当ですってば。

だってアタシの友達が言っていましたもん。ほら、吹奏楽部の千秋ちゃん。トランペット吹いてた、あの子。そう、いっつも漫画読んで、先輩に怒られてたあの子。

……なんかね、3日前に、塾の帰り道でここを通ったらしいんですよ。

ほら、ここって交通量多いじゃないですか。だから、夜遅くに帰るときは、人通りの多い方から帰るらしいんですよ。

それでね、ちょうどこの位置。ここで信号を待ってたんですって。そしたらね、なんだか向こう側に、髪が長い女の人立ってたんですって。ちょうど私達より1つか2つ上ぐらいの人が。可愛い制服を着て、信号を待ってたらしいんですよ。ぼーっと立って。

まあ普通じゃないですか。信号待つときって、ボーっとしますもん。でもね、その女の人は、千秋ちゃんの方をずっと見ながら、ぼーっと立ってたんですって。

気味が悪いから、千秋ちゃん、ずっと目を逸らしてたらしいんですけど、その女の人の口が、なんか動いたように見えたそうで。

「あれ、なんか喋ってる？」て思って、ついそっちを見たらしいんです。

そんで、よく見たらその人、「ち・あ・き・ちゃ・ん」って呼んでたみたいなんです。見知らぬ人なのに。

「気持ち悪いなー」って思ったら、信号が変わって。それで、横断歩道を渡り始めたんですって。でも、女の人は動かなかった。それで、ちょうどその人の横を横切るとき、耳元で声が聞こえたそうです。

「一人は、寂しいよ」って。

振り返ったら、その人が少し笑ったように見えたんですって。でね、その人の制服。可愛いって有名なN高のブレザーなんだけど、スカートもリボンもチェック柄に見えなかったらしいんですよ。チェックの赤色よりも濃い赤色で……たぶん、血の色だったんでしょうね。

ね、先輩！ 怖くないですか！？ だって、それって幽霊ってことですよ！

だから、ここを一人で渡るの、すっごく怖かったんですよー。先輩、

一緒に渡りましょうね！

え？ 子供みたい？ ひっどーい。本気で怖いのにー。

あ、信号赤になっちゃいましたね。すいません、私が長話しちゃった所為で。

真南先輩？ ちょっと押さないでくださいよー。危ないじゃないで

すか。

いくら『赤信号 みんなで渡れば 怖くない』でも、今は車が来るから駄目ですって。言っただじゃないですか、ここは交通量多いんですよ。

ちょ…悪ふざけも大概にしてくださいよ。危ないですってば。え？ 一人は怖い？ ほーらね、先輩も怖いんじゃないですか。アタシの言ってたこと、本気で信じてくれたんですね。

え？ 違う？

一人は寂しい……？ 何言ってるんですか、先輩。

ほんと止めてください、危ない、ちょっと、車がくるって……

……あ…も、もしかして、千秋ちゃんが言ってたのって……か、髪が長くて、先輩、印象が変わったから……千秋ちゃん、分からなくて……先輩、もしかして、先輩って……あの話の……

「独りは、寂しいよ。真咲ちゃん」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8316a/>

独りぼっちの交差点

2010年10月12日02時04分発行